

# 進路ニュース

令和5年6月13日発行

## I. 進路指導部より

文化祭が終わり、一息つく暇も無く、今月27日から期末考査が始まります。

学校推薦型選抜に出願する予定の3年生にとっては、出願の際の評定に関わる大変重要なテストになります。すでに2週間前になっているので、計画的に学習に取り組んでいる生徒もいるのではないのでしょうか。

以下に、ある予備校で発行している不合格体験記の一部を抜粋して掲載します。

「スマホにどっぷりだった『心の甘さ』が全て」不合格大学：群大理工、明治大総合数理

私はその日、悔しさを感じることはなかった。

私が受験を失敗した原因は、「自分の心の甘さ」、この1点だろう。私は高校生になりスマホを持った。今の高校生にとって、スマホとは既に生活の一部になっている。SNS等の連絡手段や、ゲームアプリは、友達と遊ぶ上でも必要不可欠な存在になってきていると思う。家に帰り一人になっても多くの動画視聴アプリがあり、またインターネットを通して様々な人と関わることができる。私はその欲求に抗(あらが)うことは出来なかった。というより、それに抵抗しようともしなかった。

その結果、私は高校入学してからすぐ墮落した生活を送っていた。勿論、成績はすぐに悲惨なものになっていった。自分自身でもそれに気付き反省する機会は何度もあった。模試や定期試験、通知表など、自分の成績が返ってくるたびに目をそむけ、スマホを触ったり、友達と遊んだりして現実逃避をし続けていた。学校の先生や親にも様々なことを言われたが、そのたびに、その場しのぎの勉強を少しだけするだけで、自らの意思で勉強をしたことは無かったと思う。

受験間近になって、高校生活で自分の中に積み上げたものは何一つ無かった。どこかのタイミングで自分を変えられたら、こんなことにはならなかっただろう。自分を変えるチャンスはいくらでもあったが、常にそれとは違う道を選択し続けたのだ。合格発表の日、不合格という文字を見ても何も思わなかった。確かにプライドからくる悔しさはあったが、落ちて当然の生活をしていた自分には、ふさわしい結果だった。

私が不合格だった原因は、常に自分にとって楽な道を選択し続けたことである。今年は〇〇予備校の寮生ということで、自分の周りの環境は変わった。残すは自分だけだ。今までの反省を活かし、苦難の道を突き進もうと思う。

ほとんどの沼高生は、勉強なんてどうにかなる、と思っているのではないのでしょうか。

自分の学力は、自分で上げなければなりません。部活動など様々な活動を言い訳にして、現実逃避している人もいるのではないのでしょうか。

大学受験は、身に付けなければならないことが多く、3年になって0から始めようとしても時間が足りず、例年、受験科目を減らし、国公立志望から私立志望へ変更する生徒がたくさんいます。

1・2年生は、これを契機に自分の生活を見つめ直し、後悔しないようにしてください。

時間は有限、努力は無限です。皆さんの頑張りに期待します。